

総合学習の進むべき方向  
—総合学習と各教科等の融合の視点—

1. 設定理由

これからの知識基盤社会やグローバル社会では、課題発見、解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを実社会や実生活で活用できる能力が求められている。そのため、学習指導要領の総合的学習の時間では、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること、他者と協同して課題解決する協同的な学習とすることが求められている。

そこで、昨年安房の総合学習の現状を質問紙で調査したところ、各学校における総合学習では、教員は体験的活動を重視した問題解決学習を行いたいと願いながら、総合学習の中で、約70%以上の学校が学校行事や児童会活動の準備等を行っていることや、教科の補充的学習も行われていることがわかった。総合学習の中で、学校行事や各教科の学習指導が大きなウエイトを占めている実態が浮き彫りにされた。

このような現状の中、各教科及び特別活動と総合学習との関係をどのように整理し、取り組めば、より効果的に成果を上げることができるのかを明らかにしていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

教科等と総合を融合する単元を設定し、教科学習の中に、総合で培うべき力を活用する場面を意図的に組み入れたり、総合学習の中に教科学習を組み入れたりし、相互補完をしなければゆとりと調和のある教育課程を創造することができるだろう。

3. 研究内容

- (1) 実践例をもとに特別活動と総合学習の融合の視点を明らかにする。
- (2) 実践例をもとに教科と総合学習の融合の視点を明らかにする。
- (3) ゆとりと調和ある教育課程のあり方を提言する。

4. 研究方法

- (1) 実践例をもとに特別活動と教科、総合学習の関係を明らかにする。
- (2) 調和ある教育課程のあり方を提言する。

5. 結 論

「教科」における知識・技能の習得に当たっては、知識・技能を実体験の裏づけを持って理解すること、知識・技能を実生活の中で活用することが重要である。このため、「教科」の学習と「総合学習」の学習との双方向の関連付けを図ることが必要である。

総合学習においては、今ある学校行事を生かしながら、横断的・総合的な問題解決学習を総合的に実践し、学習に対する興味・関心や意欲を高めていくことが必要である。

教科と総合、特別活動の融合を図ることで教育課程にゆとりを持たせることができる。

安房支部

南房総市立七浦小学校 松本 博

鴨川市立鴨川小学校 大久保美千代

館山市立館野小学校 安藤深佳子